

1983/7/14 埼玉大学
Saitama University

累積膜の手法による組織的分子集合体の形成とその機能—
とくに層状組織体中における重合反応 およびエネルギー移動、電子移動
などについて研究しております。累積膜の手法はすでにほぼ半世紀前に
Langmuir と Blodgett によって開発されたものでありますが、近年にいたり、
新たな舞台装置のもとに再び脚光を浴びるようになりました。

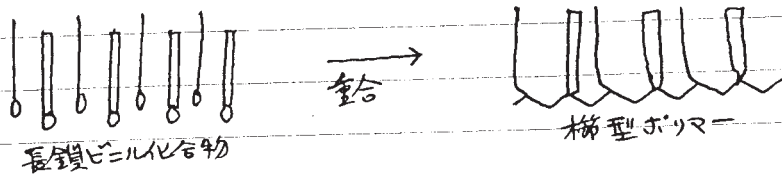
1983年7月14日 パリ祭の日に

埼玉大学 理学部 化学教室

福田 清成

Kiyoshige Fukuda

長鎖ビニル化合物の層状組織体中での二次元的重合反応
に注目し、単量体分子が高度に配向することによる重合速度の促進効果
を明らかにするとともに、生成重合体の立体規則性の制御を試
みています。低温 (-40 ~ -20°C) でシジジオタクチックポリマー
が得られることをようやく確認しました。



なお、共重合体の熱分解機構 (境界効果) の研究も細々と続けて
います。

昭和58年7月14日

埼玉大学 理学部 化学科

柴崎 芳夫

Yoshio Shitazaki